

7月の特集号

関西での交通網の工事

この枠は
2行です

関西交通新聞

大阪モノレール延伸工事

大阪モノレールの延伸工事は現在のところ、橋脚が次々と建設されているまつまです。本格的なモノレールの軌道の設置工事が行われることが見込まれています。一方で、工事が進んでいく過程で大阪中央環状線の道路が車線規制に伴い、渋滞発生率が高まっています。

大阪モノレール延伸工事を行うにあたって、道路の車線規制を行うことなく工事を実行するは難しいことから、ある程度の車線規制はやむを得ないことです。

今後の工事でも継続的な車線規制が行われることは間違いない、ラッシュ時の交通渋滞は極めて長期間にわたることは間違います。工事の事業主による対応に期待したいところです。

JR京橋駅の将来

大阪府大阪市の京橋で学研都市線の路線を地下化する計画が現実味を帯びてきました。一部メディアの話によりますと、京橋駅付近で唯一地上に踏切がある学研都市線の周辺道路は、渋滞が慢性化するなどの影響を受けていることから、早期に地下化することで利便性の向上につながることが見込まれます。しかし、工事が始まるのは、昨今の物価高の影響で、正確にいつになるかは現時点では未定となっています。今後の進展具合がどのように進むかについては、長期にわたるこ

れで、大阪モノレール延伸工事が完成すれば、大阪府東部から北部への移動手段の利便性は格段に良くなることは間違いないでしょう。現在は大阪市内に一度入り、地下鉄などで行くしか方法がないことから、モノレールが完成すれば大きな利便性向上になることは間違いません。完成すれば、大きく移動方法に変化が生じることは確かです。

水道設備による道路破損

今はまだ使用され、長期にわたって使用されている水管が数多く埋設されています。しかし、工事が始まるのは、昨今の物価高の影響で、正確にいつになるかは現時点では未定となっています。今後の進展具合がどのように進むかについては、長期にわたることによつて、道路に穴

が開くというトラブルが極めて増加しています。この問題は大阪だけでなく、全国のすべての都道府県で発生しています。自治体は財政難の関係で、交換工事を伴つて、水道管が破損す

いというのが現実です。年々、

今はまだ使用され、長期にわたって使用されている水管が数多く埋設されています。しかし、工事が始まるのは、昨今の物価高の影響で、正確にいつになるかは現時点では未定となっています。今後の進展具合がどのように進むかについては、長期にわたることによつて、道路に穴

現在の状況

現在、国内に埋設されている水道管は高度経済成長期に埋設されたものが多くて、寿命を迎えるもののが数多く存在します。現在の地方自治体の財政状況では、古い水道管の交換に振り分けるための予算編成が極めて難しいのが現状であり、破損したら取り換えるという、トラブルが起きたから交換作業が追いついてから交換作業が追いついてから交換するしかないのが現状です。

将来的な対応

すでに自治体単独での対応は難しく、日本政府が資金的に補填をしなければ、水道設備の維持管理を単独で行うことは難しいことは間違いません。しかし、日本政府の財政も危機化などによって、水道網の管理運営はより一層厳しいものとなるでしょう。

交通コラム

どの連絡はあまり好ましい状況にあるとは言えません。また、伊丹空港とJRは直結していません。そのため、公共交通機関を利用して伊丹空港に向かう場合は、阪急や空港と結んでいるバスを利用するしか方法がありませんでした。モノレールが主要な交通手段でした。モノレール延伸工事が完了すれば、伊丹空港へのアクセスは格

段に向上するでしょう。